

KEYAK!

2月号

この時期、さくひんてん当日までに重大なミッションを抱えている私は、いつも以上に子どもたちとの接点が薄くなってしまっているのですが、園内で私を見かけたときには遠くからでも、はやとせんせ〜と声を掛けられることがさらに多くなった気がします。振り向くと、ただニコニコしているだけで何を言い出すというわけでもありません。「これ見て」「あのさあ」とか報告事で呼び止められることは多かったのですが、そういうことでもなさそうです。でもこの、なんだかわからないけど呼んでみた、なんだかわからないけど手を振り返す、そんななんだかわからないけど心地いい関係性を楽しんでいます。用事を済ませるため、いつも少し足早で、「用のある人は呼んでくださ〜い」と時には言いたくなる自分をものごく反省させられるし、ハッとさせられる瞬間でもあります。彼らに人生の教訓を諭されているような、助けられているような、そんな気がします。彼らにはなんだかわからないだろうけど、ありがとうと言うよ。

今度は、なんだかわかる話。以前、きっかけなんてなんだっていい、という話をしたことがあります。運動会でもこどもかいでも今回の各学年でのでんしゃ、どうぶつ、ゆうえんちづくりにしても、ルールに乗せてあげられさえすれば子どもたちはどんどん進み始めます。各駅停車の子もいれば特急の子もいるし、遠回りの路線を選ぶ子もいます。でも目的地は皆同じです。一年間の園生活の中で培った自信と共に、この「目的を持つ」意識こそが人を前向きにさせる大事な要素であることを痛感します。あともうひとつ、例えば年中さんたちに大きな動物がほしいと駄々をこねたのは私ですが、できるよ！つくれるよ！待ってろよ！などなど・・・でんしゃにお客さんに乗せたい！ゆうえんちにおかあさんたちも招待したい！も。この幼児期に、ひとのため、誰かのために役に立ちたい、と思える気持ちや育っていることをいわゆる「見える化」、垣間見れるところは特筆すべき部分だと思います。

そんな子どもたちの思いと、作品群から、あるいは担任の先生の話から見てとれる子どもたちの取り組み過程を想像しながら「さくひんてん」に足を運んでいただけると幸いです。

今月のねらい（育ってほしい姿や経験してほしいこと）

3歳

- ・ 身の回りのことを自分でしようとする
- ・ 仲間と一緒に生活する楽しさがわかって、よるこんで活動に参加する
- ・ “こうしたい”という子どもたちの思い描いたものやこだわりを生かしながら、作る楽しさを経験する

4歳

- ・ 集団での役割あそびのおもしろさがわかり、進んで遊びに入っていける
- ・ 自分たちの問題は、仲間と一緒に解決していこうとする芽を育てる
- ・ クラスのみんなとのつながりを感じ、その中にいる自分をうれしいと思う

5歳

- ・ 目標に向けて力を出しきり、やり遂げる喜びを味わい、友達とのかかわりの中で自信を感じられるようにする
- ・ 一人ひとりが得意な分野で実力を最大限に発揮でき、互いにそれを認め合える
- ・ 相手の意見を認め合いながら、みんなで1つの結論が出せる